

10 years
JCHO
Community Healthcare Organization

地域と病院・職員同士の情報共有・情報交換

JCHO NEWS



- 03 徳山中央病院新棟工事完了
- 04 ONE JCHO
- 06 役員メッセージ
- 07 **特集** 被災地医療支援活動
 - DMAT・医療チーム
 - 広域看護師派遣・被災者受入
 - 南海医療センター
 - 星ヶ丘医療センター
 - 埼玉メディカルセンター
 - 金沢病院附属老健
- 12 DMAT (衣・食・住)
- 14 病院機能評価 桜ヶ丘病院 (前編)



10周年記念イベント：JCHO群馬中央病院
5年ぶり納涼会。たくさんの笑顔に出会えました

10周年記念キャラクター制作



JCHO松浦中央病院

「**なぎさ**」

プロフィール

お仕事：病院のPR活動
出身：アジフライの聖地
一言：辺境の地から「華夷弁別」輝く



JCHO宇和島病院

「**おたすけたい**」(愛称:たい君)

プロフィール

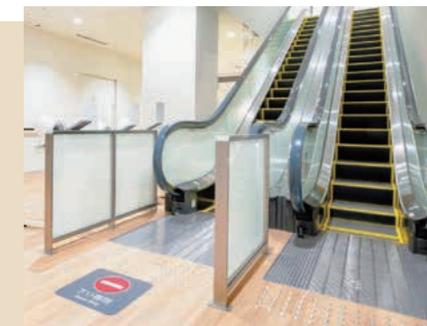
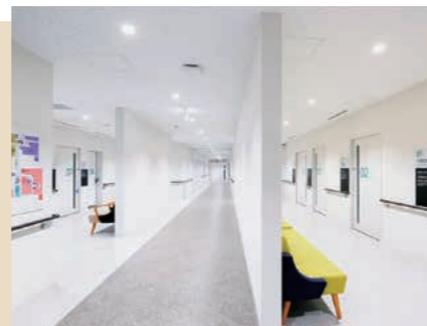
お仕事：広報活動全般
出身：宇和島の海
一言：「みんなのことを助けたい」というJCHO宇和島病院の人々の気持ちから生まれた鯛の妖精

2024年5月
運用開始



JCHO 徳山中央病院

「全ての人に優しくわかりやすい機能的な病院づくりと、災害拠点としての機能充実」



徳山中央病院は、今年で78周年を迎えます。多くの部署が老朽化の問題を抱えていました。災害に強い病院を目指すべく、令和3年から新棟建設工事に着工し、1期工事がようやく完了し、外来棟オープンの運びとなりました。敷地面積の関係で2期工事終了は令和7年12月頃を予定しています。何卒ご理解・ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。



地域に「良質な医療」という種をまき
教育という水をやると
信頼という芽がでて
「JCHO」という花が咲く



京都鞍馬口医療センター



三方を見渡せば山に囲まれ、近くに鴨川が流れる京都市北地域の『扇の要』の位置で、地域医療の核として邁進しております！

登別病院



登別市唯一の公的病院として医療と介護の両面から地域包括ケアの中核として職員一丸となって取り組んでいます



九州病院

私たちは、情熱・やりがい・お互いを尊重する気持ち大切にして、信頼される医療を実践し社会へ貢献します



大阪みなと中央病院

大阪市港区唯一の急性期病院として、地域の医療に貢献してまいります



登別市長を訪問



福岡ゆたか中央病院

「断らない救急医療体制の構築」を目指して、職員一同で近隣住民の皆様の健康を守ります

久留米総合病院



医療・保健・介護福祉を有する施設として三位一体の医療提供を行い、地域住民への貢献を行います！

高知西病院



リハビリ・透析・健診を3本の柱とし、地域の皆さんの健康と福祉の充実に力を注いでいます

東京高輪病院



「心のこもった医療を安全に提供します」、「迅速に受け入れ対応します」をモットーに、地域に必要とされ続ける病院を目指します



役員メッセージ

病院経営・総合診療医担当理事

今泉 弘

不撓不屈 (ふとうふくつ) の心

日々、地域医療の現場で献身的にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

医療を取り巻く環境は日々変化しており、私たちの病院も様々な課題に直面しています。特に経営面では、多くの病院においてこれまでにない厳しい時代がおとずれています。医業収益は増加しているにもかかわらず、これを上回る経費負担が我々を苦しめています。我々はこの変化に早急に対応し、健全な病院経営を継続しなくてはなりません。この困難な時代だからこそ、さまざまな課題を解決しながら成長する機会と捉えるべきだと思います。

JCHOで働いている私たちは地域医療を支えるべく、患者さんや地域の皆様のニーズに応え良質な医療サービスを提供する責任があります。一人ひとりの努力と協力が、組織全体の力となり、地域からの信頼をさらに深めることができます。

職種にかかわらず私たちすべてが医療に携り、日々人の健康維持・増進、治療といった大切な仕事を担っています。

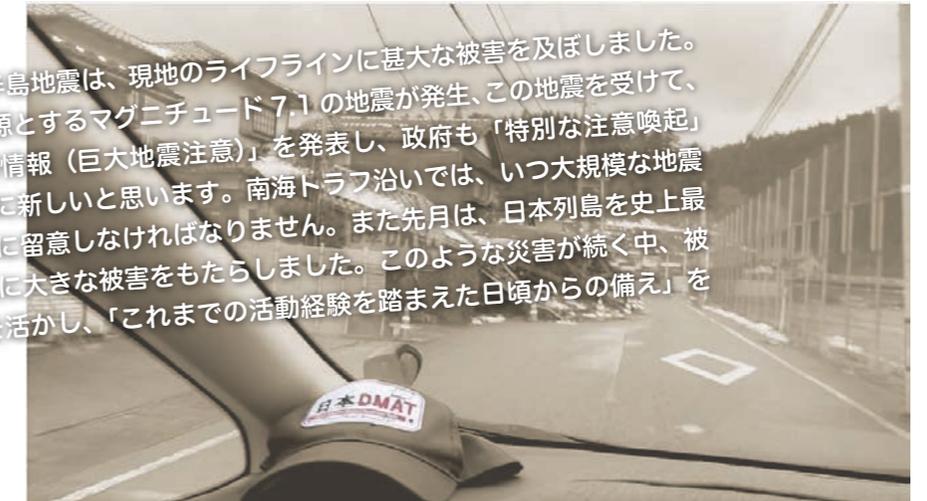
皆様と共にこの使命を果たしていきたいと考えています。常に前向きな姿勢を持ち続け、不撓不屈の心で困難に立ち向かい、プライドを持って地域に根ざした医療を展開していきましょう。



被災地医療支援活動 について

災害時の医療とは、医療需要と医療資源の均衡が崩れた状態、医療資源も少ない中で、たくさんの負傷者の対応をする医療です

元日に発生した令和6年能登半島地震は、現地のライフラインに甚大な被害を及ぼしました。さらに同年8月には日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生、この地震を受けて、気象庁は「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」を発表し、政府も「特別な注意喚起」を一定期間実施したことも記憶に新しいと思います。南海トラフ沿いでは、いつ大規模な地震が発生してもおかしくないことに留意しなければなりません。また先月は、日本列島を史上最大規模の大型台風が襲い、各地に大きな被害をもたらしました。このような災害が続く中、被災地での医療支援活動の教訓を活かし、「これまでの活動経験を踏まえた日頃からの備え」を共有していくことが重要です。



Disaster Medical Assistance Team

日本DMAT

南海トラフ巨大地震 - 覚悟と準備 - (被災地内の災害拠点病院として)

JCHO 南海医療センター 副院長 武内 裕

発災から約1ヶ月、災害のフェーズとしては亜急性期から慢性期に移行する時期の2月1日から4日まで、当院は日本DMAT（医師1名、看護師2名、業務調整員1名）として穴水町で医療支援活動を行いました。医療支援に入った公立穴水総合病院は、多大な被害により診療機能の縮小を余儀なくされていましたが、限られた人員、医療資源の中で、様々な受援の活用により早期の医療機能の復旧に向けた取り組みがなされていました。今回の地震では、能登半島内のアクセス道路の寸断により、迅速な支援活動に支障をきたした「陸の孤島」が大きな問題となりました。大分県南部医療圏も南海トラフ大地震で想定されている津波により、同様に「陸の孤島」となることが予想されます。直撃を受ける当院は災害に強い病院としてリニューアルしましたが、医療活動の制限は免れないと考えています。今回、被災地内の病院に支援活動に入ること、いかに受援体制を整え、医療活動を早期に正常復帰させるかが重要であることを教訓として得ました。その渦中、8月8日の日向灘地震を受けて「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表されました。「もしかしたらくるかも」ではなく、「かならずくる」と覚悟し、準備します。

「令和6年 能登半島地震」における JCHO の活動

「1人でも多くの命を助けよう」



災害は医療需要と医療資源の均衡が崩れた状態



【DMATへの参加】

・・・延べ活動日数 16チーム74名/325日

【広域看護師派遣への対応】

・・・延べ活動日数 42病院 80名/364日

JCHO星ヶ丘医療センター

新3病棟 看護師 新谷 早

2024年能登半島地震災害における災害支援ナース第1陣として、日赤の方2名と石川県穴水総合病院の支援を行いました。朝はDMAT会議に参加し、病院の方針や情報を共有。現場では、被災された看護師が病院で寝泊まりをしていたため、病棟看護師の負担にならないように、自分達で今何が出来るかをアセスメントして行動しました。

看護ケアでは、限られた資源を活用し患者さんの状態に合わせて口腔ケアを行い肺炎予防に努めました。

病棟以外の業務では、衛生環境を維持するため仮設トイレの掃除など率先して行ったり、より良い支援に繋げるため、災害支援ナース活動日誌や災害支援ナース間でのミーティングを密にして、次の支援ナースへの引き継ぎを円滑にすることができました。

7階西病棟 副看護師長 渡邊 久美子

看護介護部 介護福祉士 端浦 吉治

穴水総合病院の救急外来へ派遣。すでに1カ月経過後ということもあり、多数の患者さんが外傷や感染症でした。
必要な物品がなく、あるもので代用するという経験から、日頃よりあるもので対応する知識や技術を身につけておくことが大切だと感じました。
今後の災害対応時、どのように対応していくか考えながら仕事をしていきます。

〈実施したこと〉

救急外来業務：問診・処置時の介助
(シーネ固定・ニープレス装着の介助、外傷の消毒ガーゼ保護)
採血・点滴
水を必要とする処置が必要な患者の転院搬送準備
COVID-19・インフルエンザ検査

〈困ったこと〉

全ての物品の位置の把握 / 使用方法
災害を経験した患者さんとどのように話したらいいのかが迷った時があった。
断水→病棟には簡易手洗いが置かれていたが、救急外来にはなくアルコール消毒のみだった。
患者はトイレにオムツを敷いて使用、スタッフは外の簡易トイレを使用。遠く、寒かった。
夜間は暗い中4階から外のトイレに行った。また、トイレ後の手洗いの水がとても冷たかった。

2024年元日 能登半島地震が発生し、県から定員を超えての受け入れ要請がありました。受け入れに必要なベッド等の物品調達や居室の配置を考慮して、104名まで増床しました。
定員超過の受け入れに対し人員確保が必要となり、JCHO地区事務所へ派遣要請を行い、介護福祉士の応援をいただきました。

避難所では感染症が流行していましたが、感染症対策を強化しながら合計18名の被災者を受け入れました。

また、県より要請があった1.5次避難所への応援派遣では、運営・相談などの福祉的支援活動に参加しました。被災後半年以上経過しましたが、今後の目処が立っていない方も多く、引き続き安心して生活できるよう支援をしていきたいと思えます。

もっと知ってほしい、被災地医療支援活動における

DMATの衣・食・住

衣

チーム力向上！
仲間としての絆の証
共通の活動ウェア・
チームウェア
の役割は重要！



食



保存食、普通においしい！でも、毎日だと・・・



住

勿論、
トイレ事情も大変！

宿泊は、防衛省“ご用達”フェリーの時もあり



最終回2024年9月15日ON AIR

JCHO千葉病院にて撮影が行われました！

2018年に放送され、人気を博した
二宮和也主演の医療ドラマ
「ブラックペアン」の待望のシーズン2！



病院機能評価 桜ヶ丘病院 (前編)

「受審直前の様子について」

JCHO桜ヶ丘病院 事務長 上野 秀幸

2023年6月機能評価委員会を立ち上げ、全体スケジュールを計画、7月に委員会メンバーを選定し解説集に沿って課題の抽出・対策を進めました。
当院ではほとんどの職員が機能評価の受審経験が無く手探り状態でしたが、新築移転業務と重なる中で委員会メンバーが奮闘したこと、アドバイザー病院から貴重な情報提供をいただいたことでほぼスケジュールどおり準備を進めることができました。
2024年6月新宿メディカルセンター関根院長先生、相模野病院小野寺先生の模擬審査を受けて実践的なご指導をいただき本番へのイメージをつけ、8月には院内にてケアプロセス、カルテレビュー、面接調査等の練習を行い9月の本番に向けて気持ちを高めています。

JCHO 桜ヶ丘病院



6月14日
ケアプロセス模擬審査
の様子です

à la carte

JCHO桜ヶ丘病院：新築工事（2024.9）



JCHO中京病院：建替え工事（2024.8）

病院・施設情報、新規導入機器、新規取組み、告知工事進捗状況、シーズンイベント、病院食などの紹介



Trick or Treat

JCHO 東京新宿メディカルセンター

「山本理事長と対談～JCHOの総合診療医育成について～」



JCHO若狭高浜病院
整形外科/臨床研修センター長

海透 優太

総合診療の本質は、患者の個別性に重きを置いた医療であり、規模を問わずどの病院にも真の総合性が求められます。地域小規模病院では多職種連携により個別化を図った医療を提供する実践が行いやすいメリットがあります。

さらに、教育を通じて地域医療の持続可能性にも貢献できると考えており、教育で地域貢献を続けます。



編集後記

10月の第二木曜日は「世界視力デー」です。

「脳でものを見る」と聞いたことがありますか？

眼はカメラのようなもので、角膜・水晶体というレンズがあり、網膜というフィルム（CCD）に像を写します。

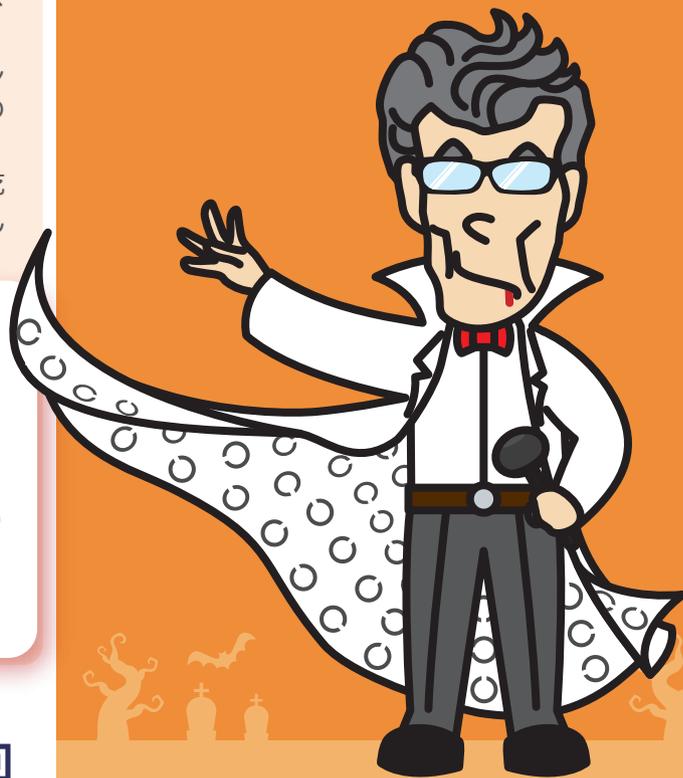
眼で見た情報は網膜で信号に変換され、視神経を通して脳に送られます。最後は脳が認識しないと見えないのです。

みなさんの中に業務や様々な理由で、目の疲れ・乾き・痛み・頭痛などの症状が出ている方はおりませんか？

近くにピントを合わせることで疲労の原因と云われています。

【20-20-20】のルールを活用して、眼の筋肉を疲れないように使うことが疲労予防に繋がります。遠くを見ることで、眼の筋肉を休ませましょう。

20分に1回
20秒間
20フィート(6m)
離れたところを見る！



独立行政法人
地域医療機能推進機構
Japan Community Healthcare Organization



本部

〒108-8583 東京都港区高輪3-22-12 ☎ 03-5791-8220

<https://www.jcho.go.jp>



地域と共に10周年！JCHOは、これからも皆さまと一緒に歩み続けます！